

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	BrightenSchoolofSpecialEducation		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育の中にレジジョエミリアアプローチを取り入れている。(イタリア発祥の教育方法) ※レジジョエミリアアプローチを取り入れることで ・子ども達が主体的に学び、個性や才能を伸ばすことができる。 ・興味のあることに取り組むことで好奇心を満ち、探究心や自主性が育まれる。 ・協調性や集中力を養うことができる。 ・創造力や表現力が育まれる	レジジョエミリアの理念に基づき、お子様の個性を全て受け入れ、尊重している。 お子様の興味や関心を注意深く観察し、それを活動に取り入れ、楽しい遊びの中で主体的に学んでいけるようにしている。 主体的に学ぶ中で、自分の気持ちや意見を伝えること、お友だちの気持ちや意見にも耳を傾け、尊重することができるように支援し、「自分を大切にす」「お友だちも大切にす」ことができるように支援している。	自分で選ぶ、考えるという経験をより多くできるようにしていきたい。 レジジョエミリアの活動の中で社会性、認知面、運動、指先を使うこと、身辺自立に向けた取り組みをバランスよく取り入れていきたい。 見通しを持って行動できるようにお子様一人ひとりに合った方法で提示していきたい。 お子様一人ひとりの特性や学び方、情報の取り方を理解し、お子様一人ひとりに合った伝え方、教え方を行っていくことを更に充実させたい。
2	お子様一人ひとりの支援方法としてABA(応用行動分析)を取り入れている。 ※ABAを取り入れることで ・コミュニケーション能力を向上させることができる。 ・問題行動が減り、その代わりに好ましい行動が増える。 ・こだわりを受け入れられ、安心できる環境の中で、好きなものが増えていく。	予防支援(事前に行動を教え、場面に合った行動を取る)を大切にしている。 正しいコミュニケーション方法を場面に合わせて教えている。 怒る、注意することで、問題行動を正すのではなく、褒める、成功体験を積むことで、好ましい行動が増えていくようにしている。 問題行動に対しては「何が原因で起きているのか」「問題行動をしたことで、どんな結果を得たか」をチームで検証し、問題行動を減らしていく支援を行っている。	好ましい行動を増やしていく為に、成功体験を更に多く積めるようにしていきたい。 スモールステップで支援を行うことを徹底していきたい。
3	インリアルアプローチ(言語コミュニケーションのアプローチ)を取り入れている。 ※インリアルアプローチを取り入れることで ・お子様の「伝えたい気持ち」を育て、ことばやコミュニケーション能力を育てていくことができる。 ・お子様が、楽しい遊びの中でことばやコミュニケーション方法を学んでいくことができる。	子どもの視点に立ち、感じていること・考えていることを尊重し、その気持ちを受け入れるようにしている。 「共に楽しむ」「共に感じる」という姿勢を持ち、接するようにしている。 お子様の自発的な行動を尊重し、お子様が主導権を持ち、遊ぶことができるようにしている。	お子様の発達段階を見極めること、信頼関係を築いたうえで支援をすることを大切にしていきたい。 お子様一人ひとりのリズムを大切に、先回りせずに対処や、声のトーン等にも気を配りながら支援していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	以前の自己評価などから、保護者様にニーズがあると考え、前年度より継続して就学前のお話会、交流を目的とした保護者会を開催した。また、親子参加の満足など新しい行事を取り入れた。 今回、保護者会の平日開催についての希望や、お子様の預け先の問題で保護者会に参加を希望できないというご意見をいただいた。今後の行事開催に向けてこれらの意見を取り入れ、開催を検討していきたい。	通常の療育に影響が出ないよう、全てのクラスを開催した上で行事を取り入れてきた。そのため、行事の開催曜日が固定化されていた。	開催日時や場所などの見直しを行い、より多くの保護者様に行事に参加いただけるように尽力する。 保護者様同士が交流を持つことによって、子育てのお悩みを共有したり、就学に向けての情報収集が出来たり、安心や支えにつながったという感想をいただいている。少しでも多くの方が参加の機会を持てるようにしていきたい。
2	毎年ハロウィンイベントでは地域の商店にご協力をいただいている。一方で、地域との関わりの面において交流を持つ場面が限られている。	事業所内のプログラムに注力してきた一方で、地域交流を持つ機会が限定されていた。	あいさつやお買い物が出来る地域資源をプログラム内容に組み込み、お子様のソーシャルスキルを育てていきたい。 地域社会の皆様、当事業所への親しみを深めていただけるよう関係を築いていきたい。
3			